

船舶事故調査報告書

令和3年2月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事故種類 | 乗揚 |
| 発生日時 | 令和元年12月15日 11時07分ごろ |
| 発生場所 | 長崎県 ^{おおむら} 大村市大村港（富ノ原地区） 長崎空港飛行場灯台から真方位010° 2.4海里付近 （概位 北緯32° 56.9′ 東経129° 55.5′） |
| 事故の概要 | 貨物船第八英裕丸 ^{えいよく} は、北東進中、浅所に乗り揚げた。 |
| 事故調査の経過 | 令和元年12月19日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済 |
| 事実情報 | |
| 船種船名、総トン数 | 貨物船 第八英裕丸、499トン |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 143558、御前崎海運株式会社 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、五級（航海）（旧就業範囲） |
| 負傷者 | なし |
| 損傷 | 船底部外板に擦過傷、推進器翼に曲損及び欠損 |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期、潮高 約39cm（大村） |
| 事故の経過 | 本船は、船長ほか4人が乗り組み、碎石を積載し、船首約3.8m、船尾約5.2mの喫水で船長が手動操舵により操船に当たり、約4ノットの対地速力で大村港（富ノ原地区）の荷役岸壁に向けて北東進中、浅所に乗り揚げた。 本船は、船長が、機関を後進にかけて離礁し、積荷を移動させて船首約4.4m、船尾約4.6mの喫水に調整した後、着岸した。 船長は、大村港（富ノ原地区）への入港が初めてであり、海図及びGPSプロッターで水深を確認して5m等深線よりも浅い海域を航行することが分かっていたものの、潮高を確認して航行できると思っていた。 |
| 分析 | 本船は、十分な余裕水深がない海域を北東進中、船長が、潮高を確認して航行できると思い、同海域を航行したことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、本船が十分な余裕水深がない海域を北東進中、船長が、潮高を確認して航行できると思い、同海域を航行したため、浅所に乗り揚げたものと考えられる。 |
| 再発防止策 | 今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・水深が浅い海域を航行する際は、喫水、水深及び潮高を考慮し、必要であれば航行する時刻や船首尾の喫水の調整を行い、余裕水深を確保しておくこと。 |

